

都道府県技師会委託事業 第2弾 「AIDS・STI 予防啓発キャンペーン」

日臨技では、「STOP AIDS」のキャッチフレーズの下、エイズ・STI 予防啓発を平成 19 年から、全国の技師会(平成 19 年度は地区技師会)に呼びかけて活動を展開してきました。

日臨技直轄事業として昨年までは 40 数県の都市にある街頭大型ビジョンにおいて当会作成の啓発映像を放映しました。今年度は更に継続的に目に触れる啓発ツールを！という多くの会員のご意見を取り入れ、手塚治虫氏のブラックジャック「BJ」の使用許可を得て、ポスター(2 種類のオリジナルポスター)を製作しました。このポスターは各技師会の協力を得て会員施設のみならず保健関連施設、中・高等学校、大学、飲食店など多くの場所に貼って頂く事ができ、一般の方からも大きな反響が寄せられています。

世界エイズデーに合わせ多くの医療団体がエイズ予防事業を展開していますが、我々の会はこの団体の中でも予防、診断、治療など、検査をとおして一番重要な役割を担っている自覚が得られる事業だと思います。そして今後もこの事業を継続することにより我々、臨床検査技師が医療関連施設のみで従事しているのでは無く、街頭活動、講演会などを通して私達自らがアピールする事で、より身近な医療職として国民に認知されるものと確信しています。この事業に変わらぬご理解とご支援をよろしくお願い致します。

本年度ご協力頂きました技師会、会員の皆様に深く御礼申し上げます。

【公益事業企画推進委員会 土居 修】

関東甲信地区

HIV・エイズ正しい知識を ～長野でおこなった啓発イベント～

長野県佐久地方では昨年に引き続き、「HIV/エイズイベント佐久 2009」を 11 月 29 日、市内のショッピングセンターで開いた。

長野県は数年前まで HIV 患者・感染者届出数が全国で 3 番目と多く、しかもエイズを発症してから感染が分かるなど発見が遅いケースの割合も高い。佐久地域では技師会をはじめ、保健所、医師会など医療関係者のネットワークによる啓発活動をしているが、今回は約 40 名の実行委員会をつくり、一般の皆さんにも分かりやすく大型ショッピングセンターでの開催となった。イベント会場では「エイズネットながの」代表の内山二郎さん司会のトークショーや看護大学生による劇

を上演し、来場者に正しい知識や検査の重要性を訴えた。なお、地元の中学生 50 名も吹奏楽演奏で会場を盛り上げていただいた。同会場では 1 週間前より啓発パネルを展示、入口付近ではパンフレット 3,000 部をコンドームや特製ボールペンを付けて手渡した。その他の学校や飲食店でもポスターの貼付をお願いした。

昨年もほぼ同様のイベントを行ったが、成果としては、イベント後の佐久保健所で検査を受ける人が急増した。実行委員会では、今は薬で発症を抑えることができる。早く治療を始めるためにも、少しでも多くの方が検査を受けることが大切。これからもイベントを続け、広く地域の皆さんに向けて呼び掛けて行きたいと考えている。写真は、地元大学生による劇上演「サザエさん一家のマスオさんが HIV 感染した場合」です。【池田昌伸】



中部地区

世界エイズデー in NAGOYA 2009 パレードに参加して

12 月 1 日に行われた“世界エイズデー in NAGOYA 2009”に初めて参加させていただきました。

会場は名古屋市栄の名古屋三越北側の栄広場で、6 時 30 分からアピール集会、7 時から周辺道路のパレード、8 時から 8 時 30 分までは追悼集会のプログラムで実施されました。参加団体は我々医療団体を含め 22 団体で、参加者数は主催者によると 151 名でした。

今年は若い方の参加が多く、主催者が喜ばれていました。愛知県臨床衛生検査技師会は、アピール集会が始まる前の 1 時間を活用し、日本臨床衛生検査技師会との公益事業としてティッシュ、絆創膏、避妊具など約 1,500 セットの配布を行い、エイズに対する理解と HIV 検査は我々検査技師が行っていることのアピールを行いました。HIV の人への感染は 1981 年に米国で報告されてから増え続けていますが、日本では 3 日に 2 人が HIV に新たに感染し、3 日に 1 人がエイズを発症しているそうです。一時期エイズは怖い病気との認識があり、マスコミも記事として多く取り上げていましたが、現在は話題性に欠ける言葉になっているよう

で若者たちの無関心化が危惧されます。

医療に携わる一員として機会があるたびにエイズに対する理解と心配のある方は HIV 検査をされることを勧めていきたいと深く感じました。【所 嘉朗】



四国地区

エイズ撲滅キャンペーンを通じて

最近では、12 月 1 日の“世界 AIDS デー”に併せて、テレビなどでは行政・関連団体の活動や著名人によるチャリティーコンサートの映像が報道され、エイズに関する啓蒙活動に触れる機会が多くなってきているように思います。

我々、愛媛県臨床検査技師会も“エイズ撲滅キャンペーン”と銘打って街頭活動を行って 3 年目になりました。この間、街頭の大型テレビで映像を流したり、愛媛県の現状を記したパンフレットや日臨技から配布されたポケットティッシュにリップ・キャンディーを添えて、市民の方々に配布するなどの活動をしてきました。今回は、今流行りのコラボ？という事で地元放送局や保健所の方達と一緒に街頭活動を行いました。

このキャンペーンを通じて感じる事は、最初の頃に比べて立ち止まって話を聞いてくれたり、質問される方が多くなった反面、“エイズ”と聞いて素通りされる方がいる事も事実です。

我々、検査に従事するものとして、正しい知識や情報を地域性や現状を踏まえて他の都道府県技師会同様、わかりやすく工夫をした愛媛県スタイルの活動をして、家族や同僚・大切な人と、ひと時でも話す機会を持ってもらえる様になればいいなあと感じました。【土居 修】



次ページへ続く・・・